

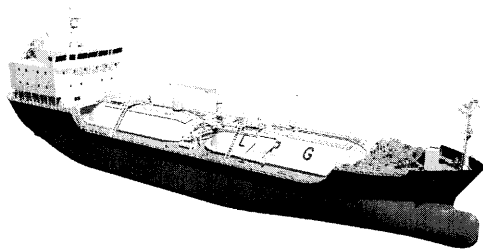
常石造船

L P G船を初受注

三井E & Sと協業

常石造船は3日、国内船主とL P G（液化石油ガス）船4隻の建造契約を締結したと発表した。船型は5000立方メートル型で、外航船となる。常石造船がL P G船を建造するのは初めて。関係強化した三井E & S造船の図面をベースに船型開発し、L P Gタンク、関連システムの設計・製造面などでも同社と協業する。第1船は、2023年に常石工場（広島県福山市）で竣工する。

受注した4隻は、標準新主機の搭載で、5000立方メートル型クラスのL P G船の汎用的な主寸法を約99メートル、幅17・6メートル、深さ8メートル、喫水6・1メートル、踏襲しつつ、新造船燃費規制E E D I（エネルギー効率設計指標）フェー



常石造船が初建造するL P G船のイメージ図

ズ3をクリアする。S C R（選択的触媒還元法）で、N O x（窒素酸化物）排出3次規制に対応する。貨物タンク、関連システムの製造は常石工場が手掛ける。常石造船は商船建造拠点として、常石工場のほか、海外で中国工場（常石集団〈舟山〉造船）、

フィリピン工場（ツネイ・ヘビー・インダストリーズ〈セブ〉）を展開する。常石工場ではこれまで8万2000重量トン型のカムサマックスバルカーなどを建造してきたが、中国造船などとの競争激化で採算が厳しいこ

ともあり苦戦。国内向けR O R O船、小型L P G船、小型客船など競合しない船種の建造に方針転換した。常石造船は三井E & S造船と18年5月、商船事業分野で業務提携を締結。21年10月にはさらに

資本提携し、常石造船が三井E & S造船の株式49%を取得した。常石造船では三井E & S造船との関係強化で、今回のような新規船種進出のほか、既存船型でのガス燃料化など今後新たな動きが出てくるとみられる。